

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

「スリーダイヤ」のブランドを守る「三菱金曜会」

1. 「三菱金曜会」。4500社を超える三菱グループ企業の中でも、主要27社の会長、社長だけが参加できる、月一度の定例会だ。金曜会には、明確な序列が存在する。三菱にはピラミッド構造のヒエラルキーがあり、頂点に位置するのが「御三家」だ。御三家のうち、長男格といえるのが三菱重工業。戦前、造船や内燃機の製造で三菱の発展を支えた最重鎮だ。次男が三菱の経営理念「三綱領」の「立業貿易」を体現する三菱商事。そして三男は三菱UFJ銀行だ。「代表世話人」はこの3社から選ばれる。
2. 金曜会は、いったい何を目的とした組織なのか。その起源は終戦直後にまでさかのぼる。財閥解体とともに三菱本社は解散となるが、三菱各社の連携をなんらかの形で残しておきたいとの気持ちは、みんなもっていた。当時は基会などを用いて意見の疎通を図っていたが、陽和不動産（現・三菱地所）が株の買い占めに遭い、買い戻すために中核企業が一層の結束を求め、「三菱金曜会」が1954年に発足した。
3. 現在の金曜会はあくまで「親睦会」の位置づけであり、活動内容は3つ。①社会貢献活動の審議、②新たに社名に三菱を冠することになった会社の紹介、③有識者の講演。今、各社を結びつけるのは世界で名が通る「三菱」という無形資産だ。そのブランド価値を守ることこそが、金曜会の役割といえそうだ。

(参考：「週刊東洋経済」2020年3月21日号)

経営者のための理念・哲学

学問を通して先見性は生まれる

田口佳史（東洋思想研究者）

1. 幕末の思想家・佐久間象山（1811年～1860年）が類い稀なる先見の明を発揮できたのは、学問を通して物事の根源を深く探究してきたからです。儒学の根本を徹底的に深堀りしたことで深い思考が養われ、それが先見の明につながったのだと思います。
2. 江戸の教育者は皆閉鎖的でしたから、すべてを分け隔てなく教えるという象山のような考えの人は極めて稀でしょう、私は象山の弟子たちが皆、大成した理由はこのオープン主義にあると思います。象山は「出藍の誉れ」という言葉を好んで口にしました。日本が西洋に学ぶというと、どうしても西洋を上に見てへりくだってしまう。だけど、そんなことじゃだめだ、努力次第でいくらでも追い抜けるんだと象山は語っています。

(参考：「致知」：2020年5月号)

人事・労務について

ミドル社員の強みを活かす

1. 今のミドル社員は適度な危機感を持って社会人生活を送ってきた世代だ。就職氷河期やバブル崩壊を経験し厳しい現実を知っている。逃げ切ることを前提としない姿勢は踏み出すことでチャンスを生む。企業がミドルに求める要素は大きく3つ。スキル、コミュニケーション能力、そして常に学ぶ姿勢だ。謙虚な姿勢で、自分、会社、世の中の流れを知ろうとすることが、成功へのカギとなる。
2. ミドルは大きく2つの力がある。まず交渉力。相手の気持ちを見極める能力は若者よりも圧倒的に高い。もう1つは、会社の意思と自分の行動を連動させる力。組織に対する理解の深さでも秀でている。

(参考：「日経ビジネス」2020年3月16日号)

古典に学ぶ

人と禽獣とは僅少である

(解説) 人と禽獣とはどこが違うかというような問題も、昔は簡単に説明されたであろうが、学問の進歩に従って、それすらますます複雑な説明を要するにいたったのである。人間と禽獣との違いは、極めて僅少に過ぎぬ。人間の形を成しておるからとて、我々はこれをもってただちに人なりということは出来ぬのである。

(参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会)